

・ 困難を有する若者・家族の実態

1 . ネットアンケート調査概要

1) ネットアンケート調査の位置づけと目的

次章以降で取り上げる郵送アンケート調査や現地ヒアリング調査が、支援団体(支援する側)に対する調査であるのに対して、インターネットによる意識調査(以下「ネットアンケート調査」)は、困難を有する子ども・若者及びその家族(支援を受ける側)を対象としている。特に本調査研究では、子ども・若者本人ではなく、その家族に焦点を当てて、家族として感じていることや、家族から見た本人(困難を有する子ども・若者)に関して調査を行う。

以上を踏まえると、ネットアンケート調査の目的は大きく3点あり、第一に、困難を有する子ども・若者を抱える家族の意識、及び家族から見た本人への意識を把握すること。第二に、家族及び本人が有する支援等へのニーズ、及び提供される支援サービスへの評価・マッチングを把握すること。第三に、困難を有する子ども・若者を抱える家庭と、そうではない一般の家庭を比較して、前者が意識の面でどのような特徴を持っているかを明らかにすることである。

2) ネットアンケート調査の手順、留意点

一般にネットアンケート調査は、インターネットを介して個人向けに実施するアンケート調査であるため、調査に対して必要なサンプルを確保することが課題となる。ネットアンケート調査では、困難を有する子ども・若者を抱える家庭(以下「困難家庭」)が主たる分析対象となるため、そのサンプルを十分に確保するために工夫が必要であった。また、一般家庭(困難を有する子ども・若者を抱えていない家庭)と比較することで、困難家庭の実態がより鮮明になると考え、困難家庭と同数の一般家庭も調査対象とした。そのために、事前調査としてスクリーニングを設計し、調査票を発送する困難家庭・一般家庭の数を十分に確保することとした。ネットアンケート調査の実施は以下の手順で行った。

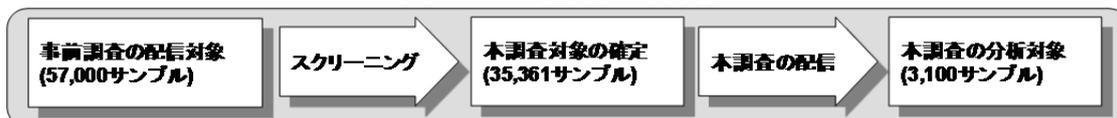
図表 11 ネットアンケート調査の作業手順

ネットアンケート調査の作業手順
[1 調査仮説の検討] ・ 調査仮説(仮案)の作成 ・ 調査仮説に関する意見交換
[2 調査票の作成] ・ スクリーニングのための事前調査の調査票の作成 ・ 仮説検証のための本調査の調査票の作成 ・ 仮説検証のための分析計画の作成
[3 事前調査(サンプル抽出)の実施]
[4 本調査の実施]
[5 調査結果の分析、整理] ・ 分析計画に沿った単純集計、クロス集計の実施 ・ 分析計画に沿った調査対象毎の比較分析の実施 ・ 仮説の検証結果の整理、示唆出し

3) 事前調査概要

事前調査は、57,000 サンプルに対して配信し、「困難家庭」「一般家庭」をスクリーニングし、本調査で各家庭から 1,500 サンプルずつ回収できるようにした。事前調査でスクリーニングする際の質問項目は以下の通りである。

図表 12 配信数と回答数



図表 13 事前調査の設問

- 問1: あなた自身の家族構成について、同居していない方も含めお答えください。
→兄弟姉妹・子ども・孫を家族に持つ者を抽出
- 問2: 兄弟姉妹、子ども、孫のうち、15歳以上40歳未満の方はいらっしゃいますか。
→いると答えた者を抽出
- 問3: 15歳以上40歳未満の兄弟姉妹、子ども、孫のうち、現在ひきこもり、ニートなど、社会生活を円滑に営む上での困難を抱えている方はいらっしゃいますか。
→いると答えた者を抽出(困難家庭)
→いないと答えた者を抽出(一般家庭)

4) 本調査概要

上述のように 35,361 サンプルに送付し、「困難家庭：1,500 サンプル」「一般家庭：1,500 サンプル」以上回収するまで続けた。今回、困難家庭・一般家庭においては、「結婚または事実婚の状態にあるものを除く15歳以上40歳未満の者(本人)」を、家族(子ども、兄弟、孫)に持つとしているため、本人との関係で「祖父母」「父母」「兄弟姉妹」に区分して回収状況を見守った。インターネットの利用度合いが若年層に比べると低いこともあり、祖父母からの回答数は十分ではなかったものの、困難家庭と一般家庭それぞれ 1,500 サンプルを回収することはできた。以下が回収結果であり、以下ではこの回収サンプルを分析対象のサンプルとしている。

図表 14 セグメントごとの回収結果

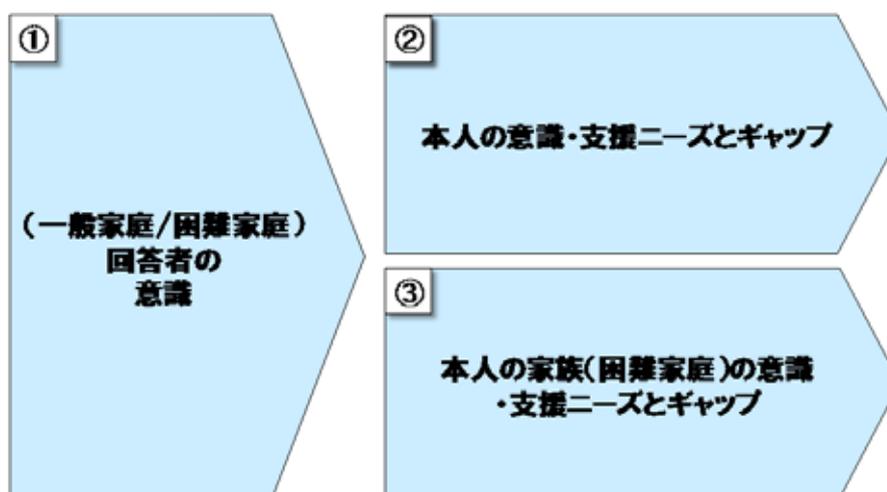
(単位:人)

	一般家庭	困難家庭	合計
祖父母	210	47	257
父母	826	917	1,743
兄弟姉妹	518	582	1,100
合計	1,554	1,546	3,100

2. ネットアンケート調査取りまとめの方針

集計結果については、回答内容のカテゴリー（ ）ごとに、次図の流れで取りまとめた。
で困難家庭と一般家庭の違いを比較し、 で社会生活を営む上で困難を抱える方(以下、「本人」という)の意識等、 で被支援者の家族の意識や支援ニーズとそのギャップについて考察することを通して、困難家庭と本人についての全体像を把握するとともに、これからの支援に求められることを探ることとした。

図表 15 ネットアンケート分析の流れ



- では、一般家庭と困難家庭が共通の質問に回答した結果について取りまとめた。属性などの基礎情報や、普段どんな不安を感じているかなどの意識についての質問への回答結果について、一般家庭と困難家庭の違いを比較している。
- では、困難を有する子ども・若者(本人)についての質問に対する困難家庭の回答者の回答結果を取りまとめた。本人の意識や、支援に対するニーズ、ニーズとのギャップについて考察している。
- では、本人の家族、つまり困難家庭について、本人の困難の原因についての考え方などの「意識」に関する回答結果を取りまとめている他、回答者自身の家族支援についてのニーズや、ニーズとのギャップについての回答結果を取りまとめ、考察している。

3. ネットアンケート調査結果

1) 一般家庭 / 困難家庭・生活実態の思考と態度

この節では、一般家庭と困難家庭の回答者それぞれの普段感じている不安などの意識について取りまとめている。なお一般家庭と困難家庭の回答者については次表の通り分布に差が無いようにした。

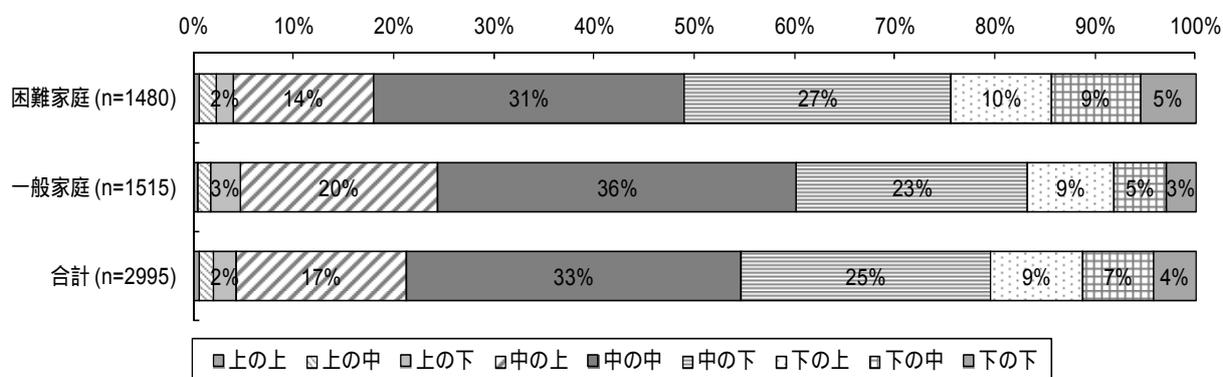
図表 16 回答者の性別・年齢・居住地域（一般家庭 / 困難家庭別）(SA)

		困難家庭	一般家庭
性別	男性	778	776
	女性	768	778
年齢	20代以下	196	206
	30代	295	259
	40代	243	240
	50代	431	362
	60代	281	289
	70代以上	100	198
居住地域	北海道	93	67
	東北地方	92	71
	関東地方	578	613
	中部地方	228	265
	近畿地方	304	315
	中国地方	77	61
	四国地方	36	32
	九州地方	138	130
総計		1,546	1,554

(注) 表題の「SA」とは「単回答」を意味している。以下同様。

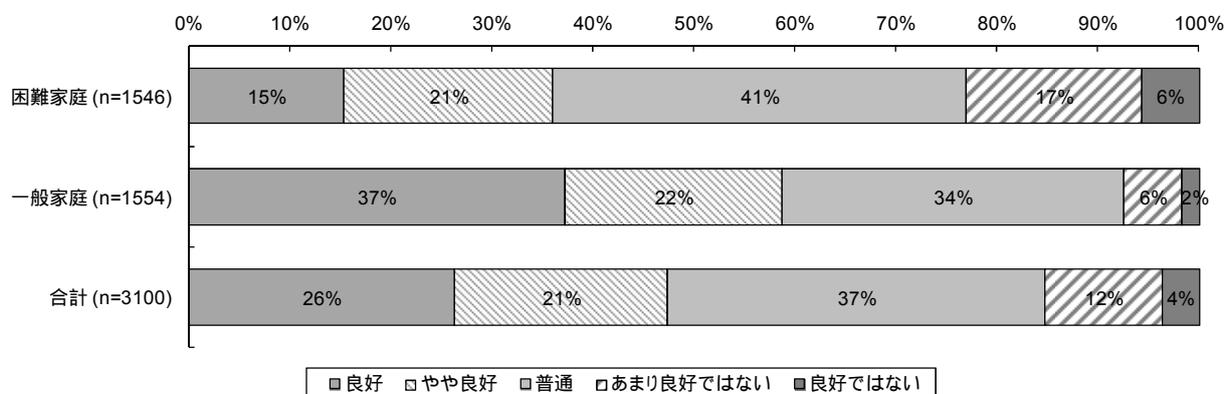
自身の普段の暮らし向きは実感としてどのレベルだと思うか、について尋ねた質問については、困難家庭・一般家庭の間で違いが見られる。次図のように、困難家庭が「中の下」以下と答える割合は一般家庭に比べ10ポイント以上高かった。

図表 17 回答者の実感としての生活レベル（一般家庭／困難家庭別）(SA)



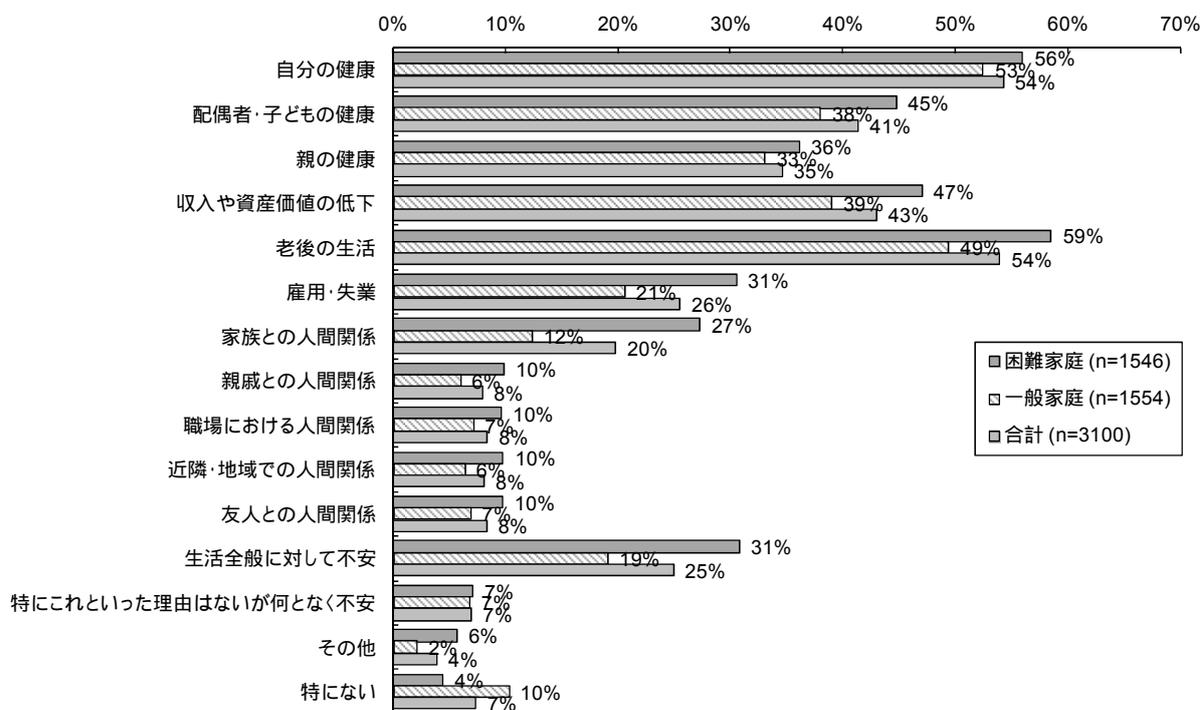
家族関係の状態については、次図のように困難家庭では家族関係を「良好」または「やや良好」と回答したのは36%、一般家庭では59%であり、困難家庭は、一般家庭に比べ「良好」「やや良好」と回答した割合が20%以上低かった。

図表 18 回答者の家族関係の状態（一般家庭／困難家庭別）(SA)



普段どんな不安を感じているかについては、全ての項目で困難家庭の方が一般家庭よりも不安を感じている割合が高かった。中でも、不安と回答した割合が一般家庭よりも10ポイント以上高かったのは「老後の生活」「雇用・失業」「家族との人間関係」、そして「生活全般に対して不安」であった。反対に、「自分の健康」や「親の健康」については、困難家庭と一般家庭ともに不安が高かった。

図表 19 回答者の普段感じる不安（一般家庭／困難家庭別）(MA)



(注) 表題の「MA」とは「複数回答」を意味している。以下同様。

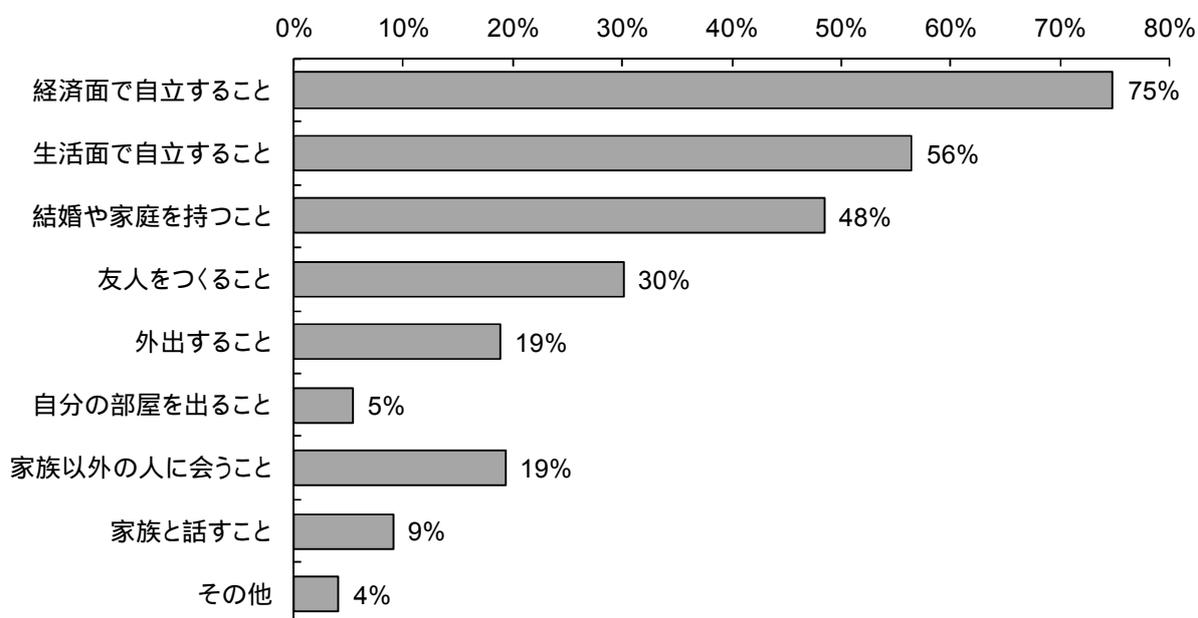
2) 回答者から見た本人の意識・支援ニーズとギャップ

この節では、困難家庭に関して、回答者から見て本人が難しいと感じることについての意識や、支援ニーズ、ニーズとのギャップについて、回答結果を取りまとめている。

結果として、本人支援を受けた経験のない家庭が困難家庭の半数以上を占めること、また、支援を受けたことのない家庭には、どこで支援を受けたいかわからない家庭や、そもそも特に支援の必要性を感じていない家庭が多いことが明らかになった。

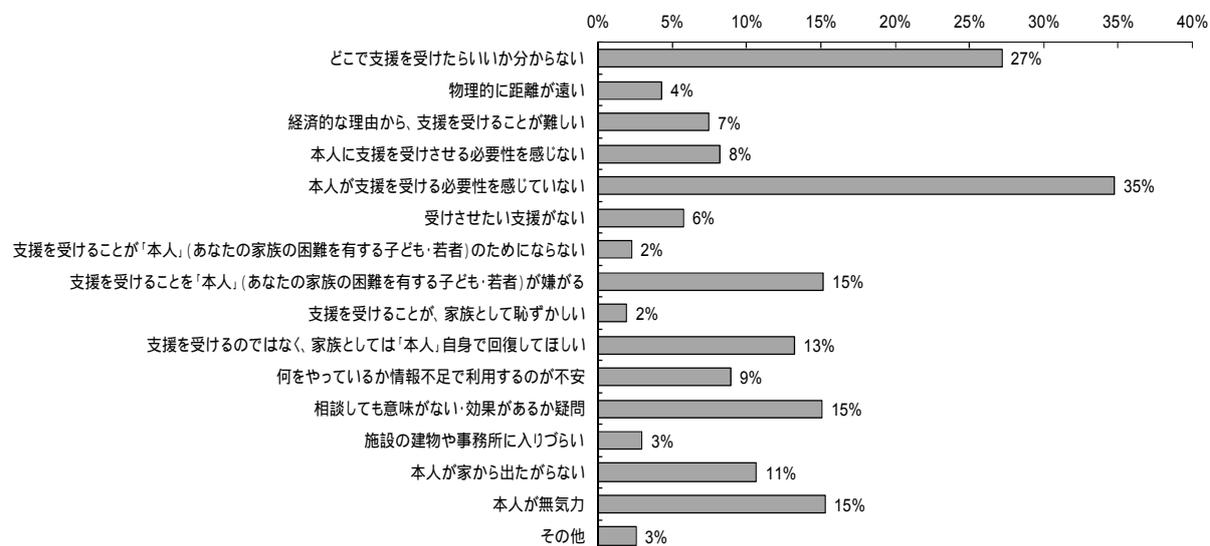
まず、本人が難しいと感じていることについての質問に対しては、「経済面で自立すること」との回答が最も多く、75%であった。また、次いで「生活面で自立すること」が56%、「結婚や家庭を持つこと」が48%と多い。

図表 20 本人が難しいと感じていること(n=1546) (MA)



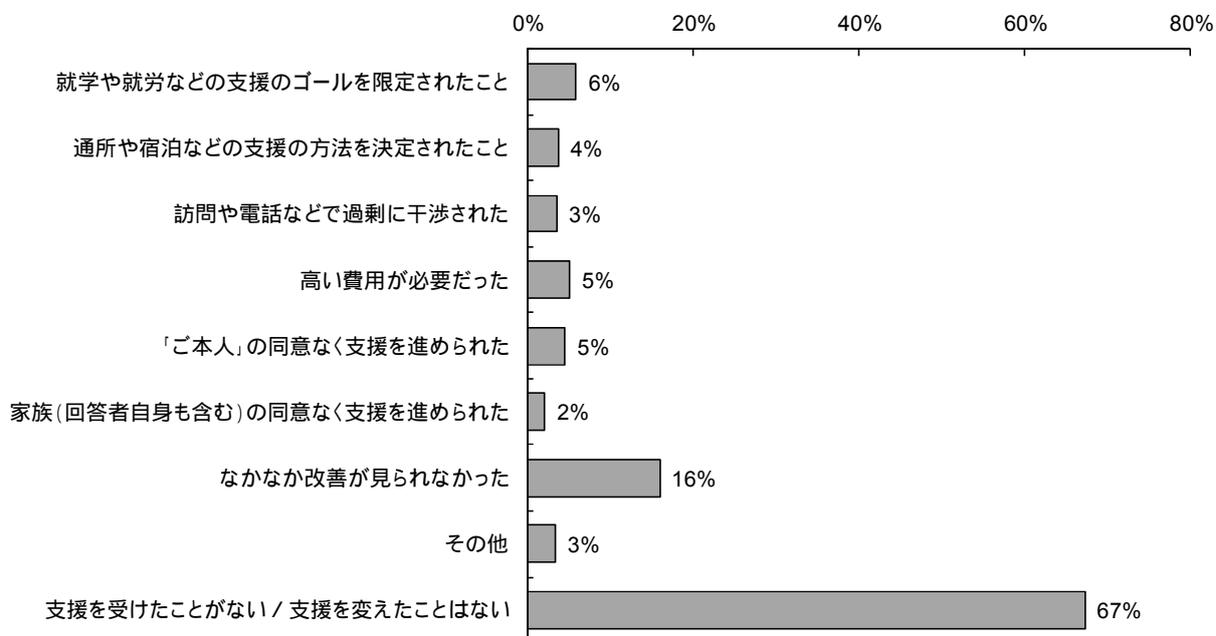
支援を受けたことがない本人を家族にもつ回答者（53%）に対し、支援を受けていない理由を尋ねた質問では、「本人が支援を受ける必要性を感じていない」との回答が35%と最も多かった。しかし一方で、「どこで支援を受けたいかわからない」と回答する者も27%いる。

図表 21 本人が支援を受けていない理由(n=819) (MA)



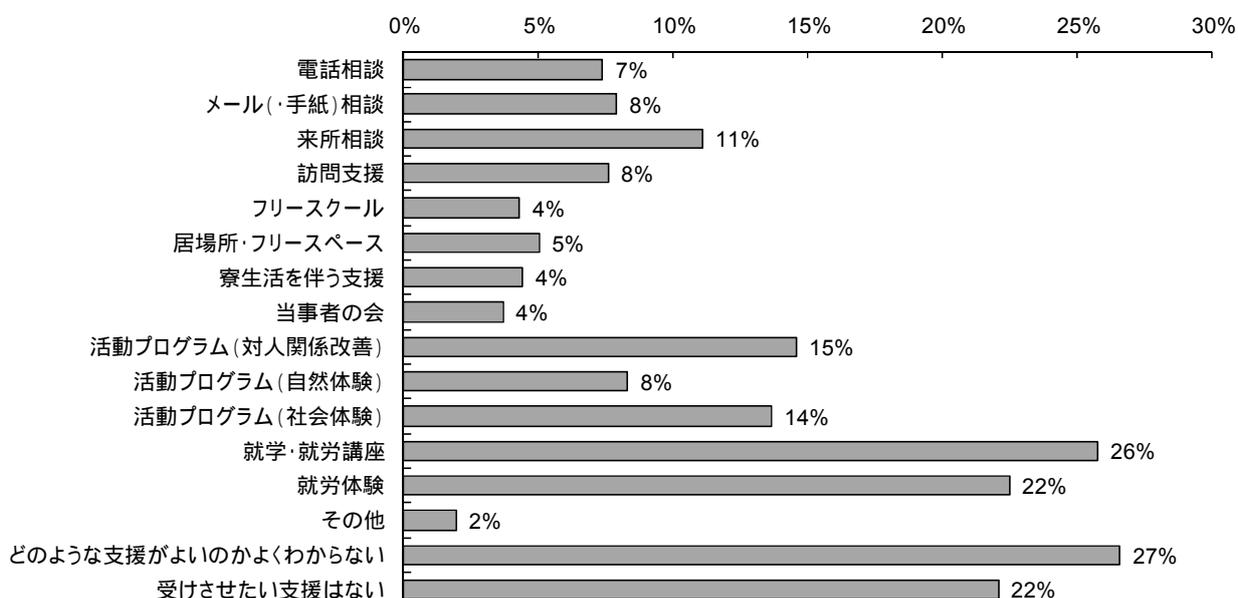
提供される支援を変えたことがある場合、支援を変えた理由としては、「なかなか改善が見られなかった」との回答が最も多かった。しかし、支援を受けたことがない、もしくは支援を変えたことはないとの回答が67%を占めている。

図表 22 本人が受けた支援を変えた理由(n=1546)(MA)



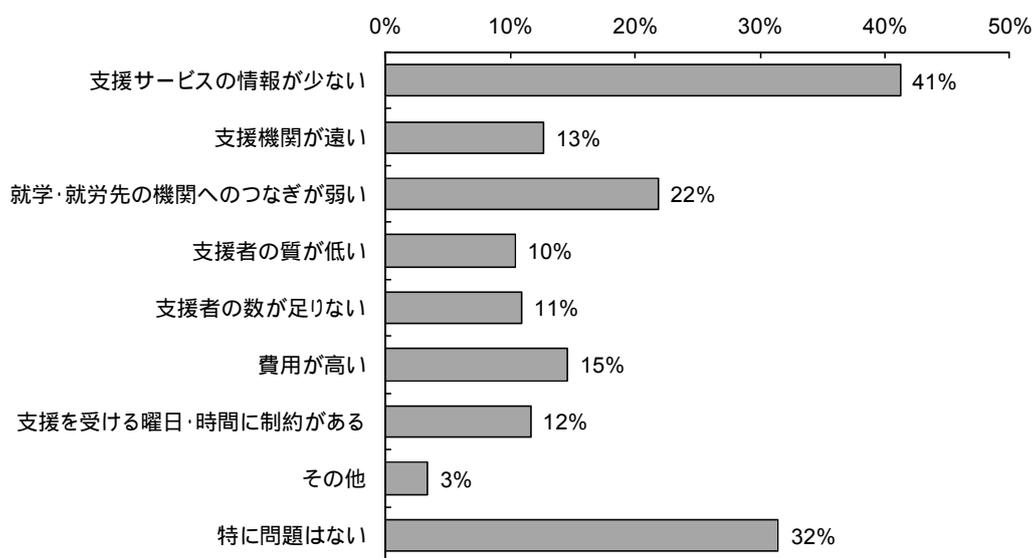
支援を受けたことがない本人を家族に持つ回答者(53%)に対し、本人に受けさせたいと考えている支援について尋ねた質問では、「どのような支援がよいのかよくわからない」が27%であった。「受けさせたい支援はない」も22%であった。受けさせたい支援として挙げられている中では、「就学・就労講座」が26%、「就労体験」が22%であった。

図表 23 本人に受けさせたい支援(n=819)(MA)



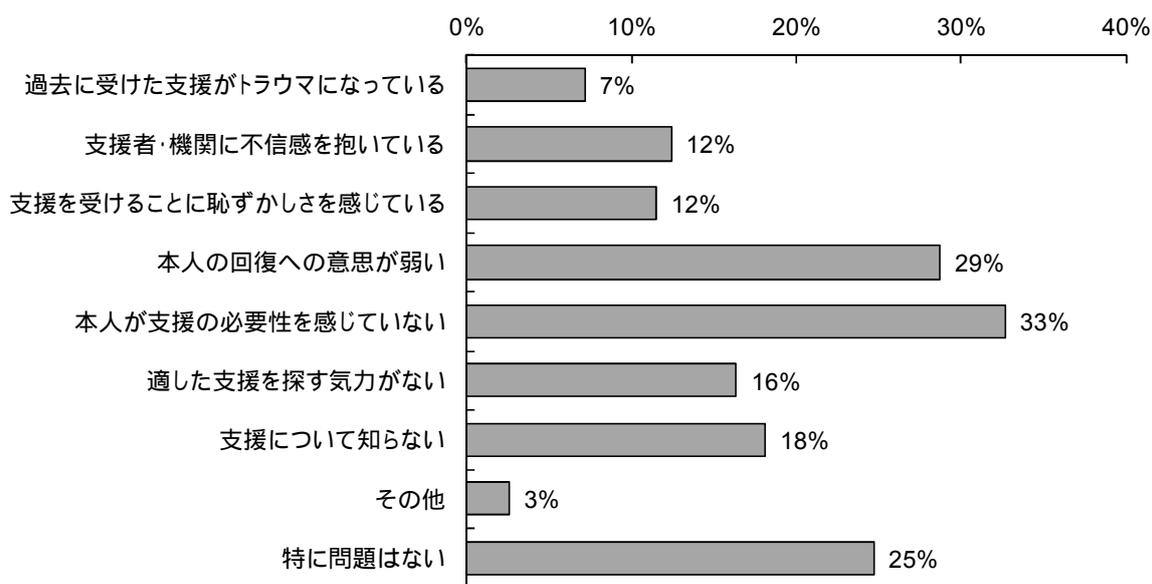
適切な支援を受ける上で、支援団体における障害と考えられるものについて尋ねた質問では、「支援サービスの情報が少ない」ことを挙げる割合が最も高かった。前述のように「どこで支援を受けたいかわからない」など、支援サービスに関して十分な情報を得ることができていないことがうかがえる。

図表 24 適切な支援を受ける上での、支援団体における障壁(n=1546)(MA)



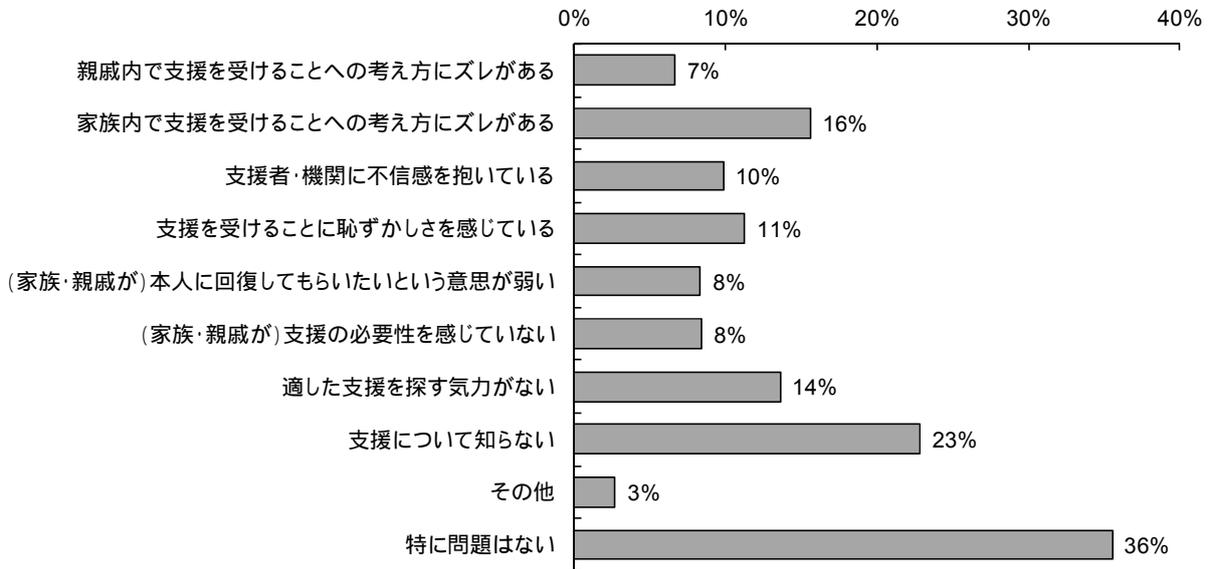
また、適切な支援を受ける上での本人に関する障壁としては、「本人の回復への意思が弱い」「本人が支援の必要性を感じていない」ことを挙げる者が多かった。

図表 25 適切な支援を受ける上での、本人に関する障壁(n=1546)(MA)



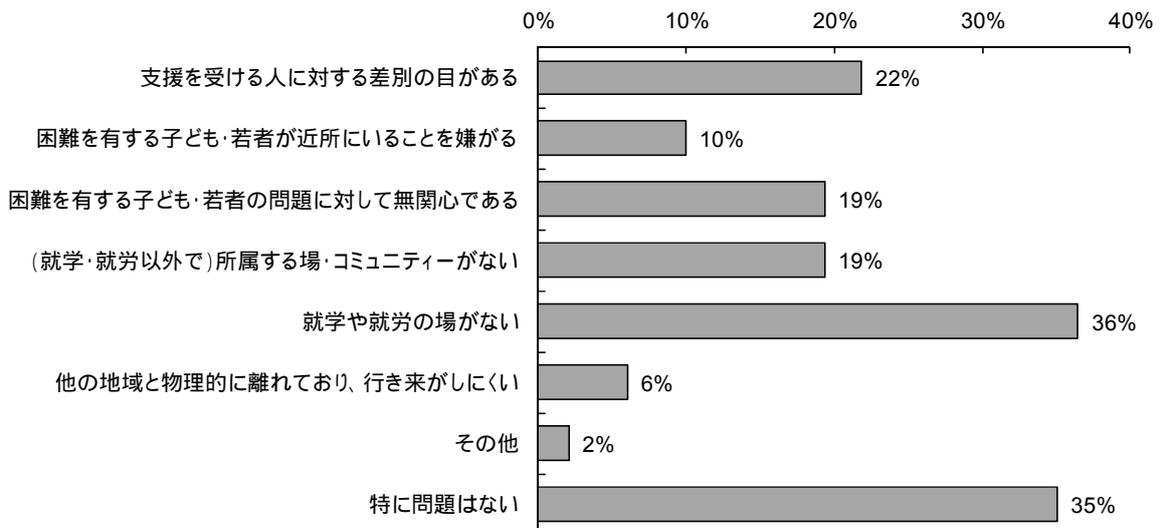
適切な支援を受ける上での、家族・親戚に関する障壁としては、「支援について知らない」が23%、「家族内で支援を受けることへの考え方にズレがある」が16%、「適した支援を探す気力が無い」が14%の順に多かった。

図表 26 適切な支援を受ける上での、家族・親戚に関する障壁(n=1546)(MA)



適切な支援を受ける上での、周辺環境・地域社会の問題として考えられるものについては、「就学や就労の場がない」との回答が最も多かった。

図表 適切な支援を受ける上での、周辺環境・社会における障壁(n=1546)(MA)



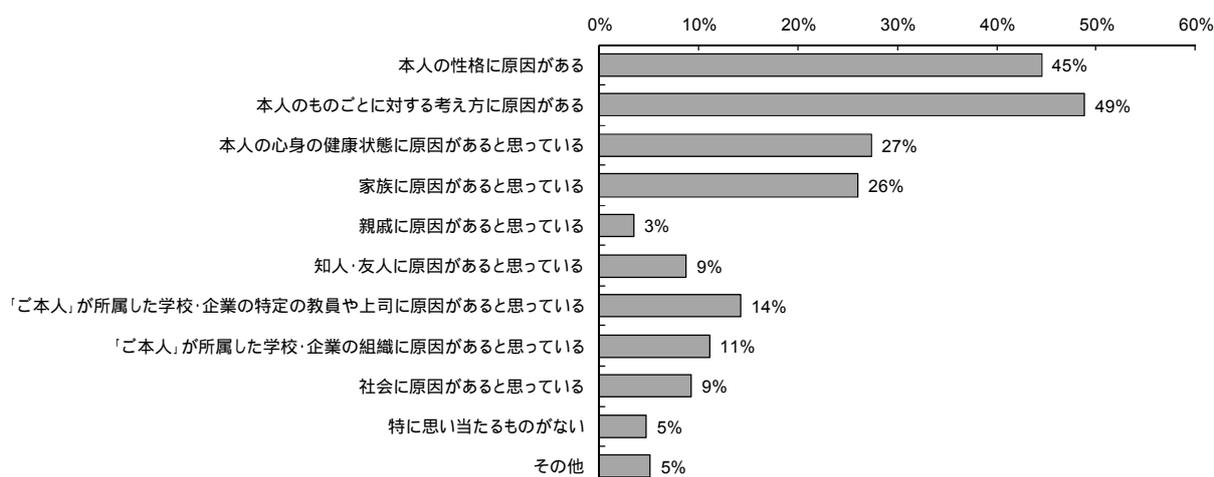
3) 本人の家族(困難家庭)の意識・支援ニーズとギャップ

この節では、困難家庭に関して、本人の困難の原因に対する家族の考えなど、家族の意識に関する回答結果を取りまとめている。また、併せて、回答者や回答者の家族の困難・支援の実態、家族支援についてのニーズ・ニーズとのギャップについても取りまとめている。

意識に関しては、結果として、本人が困難を抱えるに至った原因を本人に帰する家庭と、家族に帰する家庭に大きく二分される傾向にあることがうかがえた。家族の困難や支援についての回答結果としては、家庭内の問題を抱える回答者は多いにも関わらず、家族支援を受けたことのある困難家庭は少ないことが分かった。

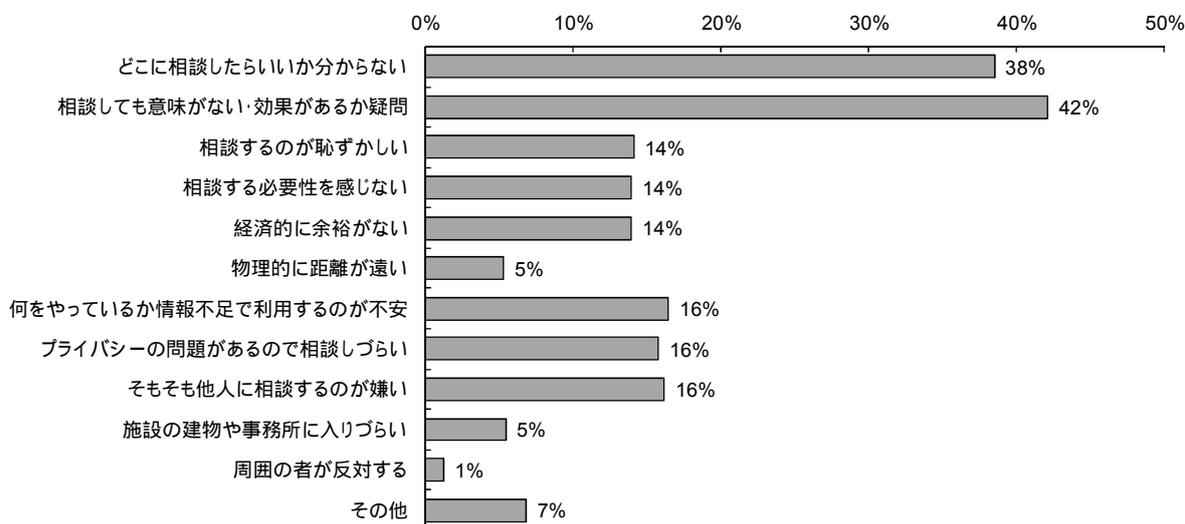
本人が困難を抱えるに至った経緯・背景についての考え方としては、「本人の性格に原因がある」が45%、「本人のものごとに対する考え方に原因がある」が49%、「本人の心身の健康状態に原因があると思っている」が27%と、上位3つが本人に原因があると回答している。また、「家族に原因があると思っている」割合も26%ある。

図表 27 困難家庭の回答者が考える、本人が困難を抱えるに至った経緯・背景(n=1546)(MA)



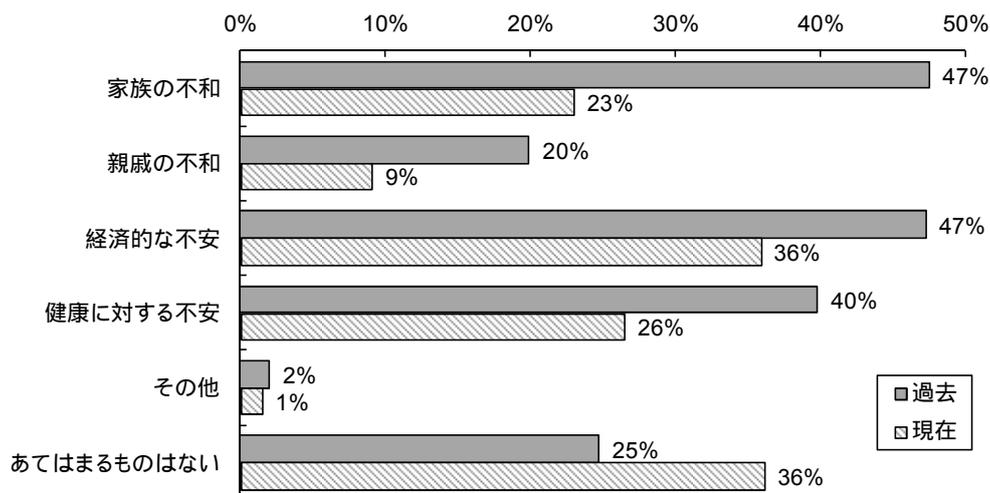
相談の経験のない本人を家族にもつ回答者(52%)に対し、相談しない理由を尋ねたところ、相談していない理由としては、「相談しても意味がない・効果があるか疑問」が42%、「どこに相談したらいいかわからない」が38%と多かった。

図表 28 困難家庭の回答者が相談していない理由 (n=717)(MA)



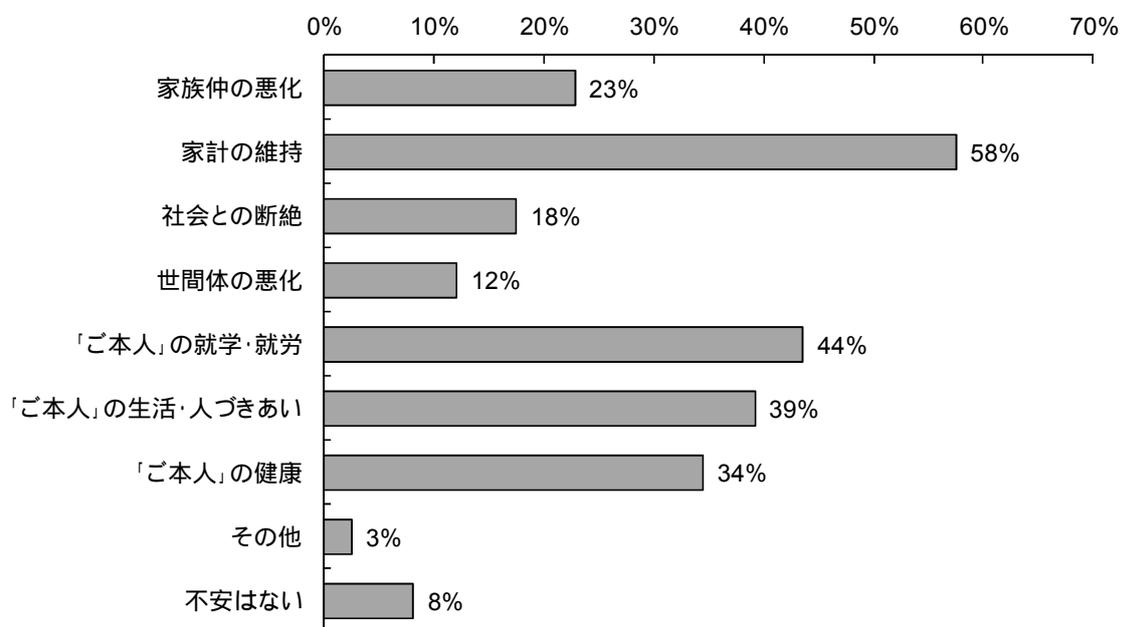
次図は、回答者自身や家庭が過去に経験したことがある困難と、現在抱える困難についての回答結果である。困難家庭のうち25%は過去に「あてはまるものがない」と回答しており、75%が家庭の困難を経験したことがあることになる。また、困難家庭のうち36%は、現在「あてはまるものがない」と回答しており、64%が現在も家庭の困難を抱えていることが分かる。

図表 29 困難家庭の回答者が、過去経験したことがある/現在抱える困難 (n=1546)(MA)



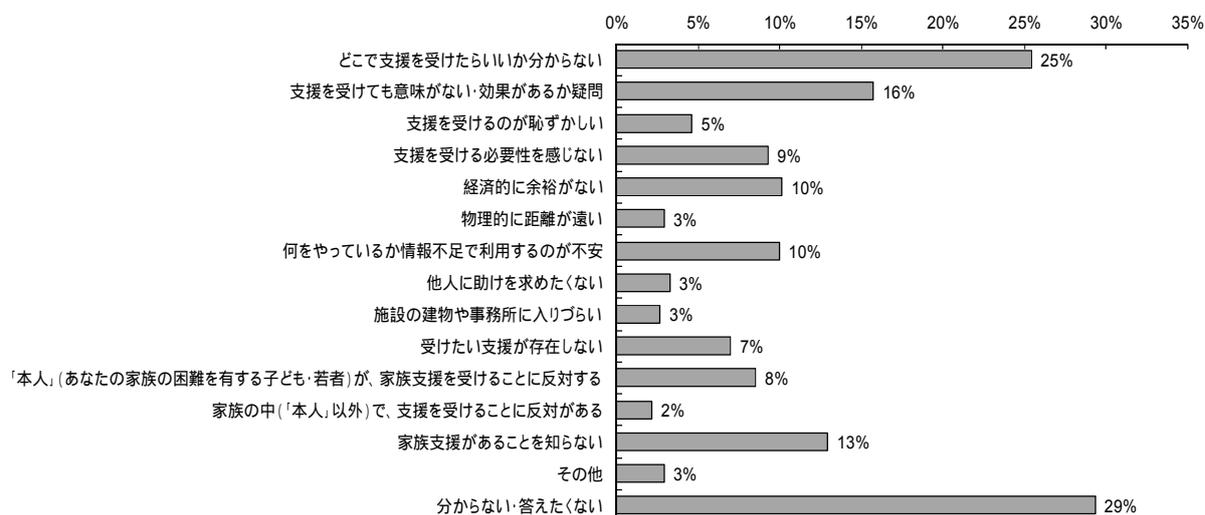
困難家庭の回答者が将来について感じている不安としては、家計の維持が多く、58%となっている。それ以外では、本人についての不安を回答する割合が高くなっている。

図表 30 困難家庭の回答者が、将来について感じている不安 (n=1546)(MA)



困難家庭で家族支援を受けたことが無い回答者(76%)に対し、家族支援を受けていない理由を尋ねたところ、「分からない、答えたくない」が29%で高かったが、「どこで支援を受けたいか分からない」との理由も25%あることから、困難家庭を適切に導くことができれば家族支援につなげることは可能であると考えられる。

図表 31 困難家庭の回答者が、家族支援を受けていない理由 (n=1177)(MA)



家族支援として受けたいものについて尋ねた質問では、「本人との関わり方に関する助言・アドバイス」が34%で最も高いが、一方26%が「分からない」と回答していることから、困難家庭に対して、どのような家族支援を提供できるか、ということについて説明する段階からアプローチしていく必要があるのではないかと考えられる。

図表 32 困難家庭の回答者が、家族支援として受けたいもの (n=1546)(MA)

